

尊經閣文庫本複製

# 宴曲集成

一

古典文庫

尊經閣文庫本複製

# 宴曲集成

一

古典文庫

古典文庫第三〇二冊

昭和四十七年七月二十日印刷発行

© 非売品

成集曲宴  
(一)

解説者 武石彰夫

発行者 吉田幸一

印刷者 東京都板橋区熊野町三四  
帝都印刷製本株式会社

発行所

114 東京都北区西ヶ原  
三ノ三四ノ一二

古典文庫

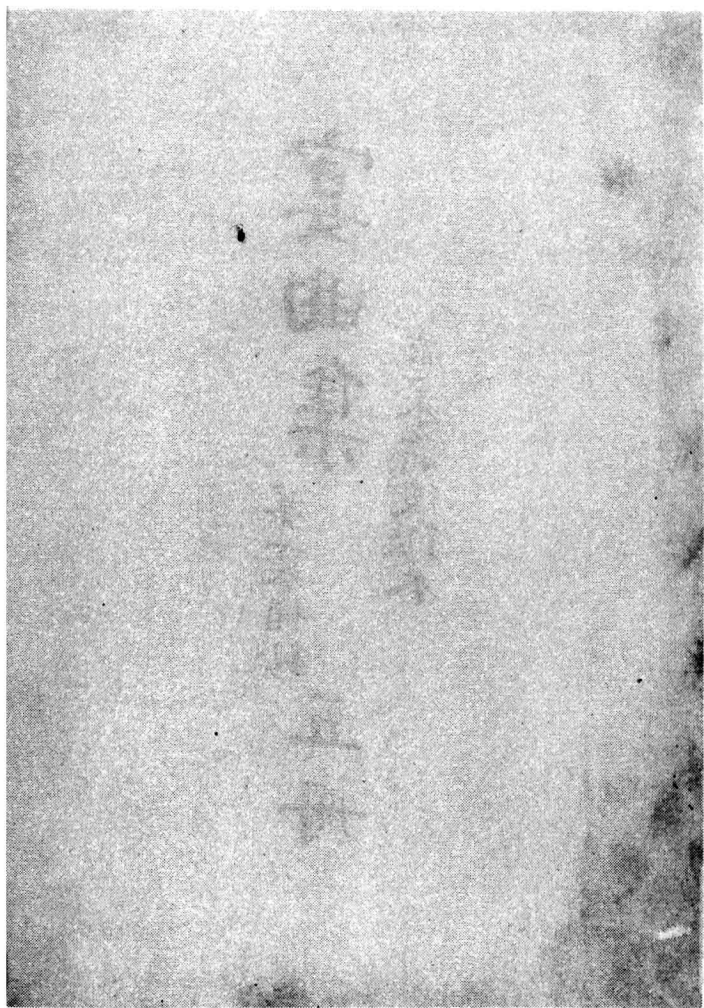
電話(九一〇)二七一七  
振替口座東京一四五九七番

宴曲集

第一卷補鈔

五冊

應永前後鈔本



宴曲集卷第一

四庫全書

春

花

春野遊

夏

郭云

秋

月

秋興

冬

雪

春

あそびのしるしを井のうゑに  
矢乃戸のゆり音とて聞きて  
誘川を風かすじとて流るる  
下草は猶ほ結まじく思ふ

年々去れ難き人こそ来の實れ東海  
世もや多き河さへ梅も多と梅  
花も白きく柳も花も多と梅  
百子鳥も傳い己の羽風も花も多  
花も白きく柳も花も多と梅

らん八重敷冬は雲深き藤浪江  
まがひく池乃西殿こよそやそら  
志井てやも新まねけりてや拵  
乃ゆゑやふ三月乃永きま月と  
相あはれくに書し

花

春ハ残リ来レ法アリテ黙シク梅桃  
李遠花中ニハト勝ルル红梅系  
梅初花梅さけりより梢の紅  
雪花乃此れ名高き石棠より優一

金谷苑廬山乃遙れ錦繡吾我  
朝れ吉野山龍田泊瀬志賀の山奈  
良の都れ八重橋大内山れ花橋雪  
丹れ橋とかうなり修時乃奈れ舞  
人む志河めれ急るまにさいけ非乃

南とそふれりてまき禱列れ  
 天宮に雅極るまけ花の盃深和の  
 此門のむれ家天長八年れまやむ

見の御幸とまきりハ係安少五れ  
 二月万代れまきりまきりまきり

河飛りし花を見くぬく  
あやめはうきと恨  
雲と波を楊貴妃の如くと  
帯く花の枝源氏と云れ上意の中  
かしき櫻僧馬より橋人雙個より柳も

夢を山此遍照僧正を園此志大光と  
明や花を衣を深花うすやう花が  
之を山說法の庭より四種身臨此  
花をゆふ法をの啼く倭墨をいれ  
ふ月明りら床と衣質より沖代を道と



あやふいもの多きにゆていふ侍ふ  
常はい誰か行路に珠簾い  
もう巻さふは夢の枕は吉作て人  
来と客と呼とや基頭み酒を  
て碑を勧る初は煙下に美を和する